

<p style="text-align: center;">第 2-4 回</p> <p style="text-align: center;">(2021.4.20,4.27,5.11)</p>	<p style="text-align: center;">資料調査の入り口</p> <p style="text-align: center;">須田千里教授(人間・環境学研究科)</p>
<p>■ 第 2 回:演習(KULINE の使い方) 4 月 20 日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 場所: 学術情報メディアセンター南館 303 演習室(対面) ✓ 出席者:14 名 ✓ 配布物: 授業で使うツールの紹介、KULINE 講義、 KULINE 演習問題、KULINE 演習問題解説 <p>◀前半▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 北村先生によるスタッフ紹介 ➤ 須田先生による授業の概要・目的の説明 ➤ 授業で用いるツールの紹介(15:00 - 15:10 担当:八木澤) <ul style="list-style-type: none"> □ 冒頭に北村先生より「資料調査の入り口」による、本パートの概要・目的の説明がなされた。その後、演習補助者が本授業で用いるツールとして、PandA 授業サイト、学習サポートデスク、附属図書館の Twitter アカウントの紹介を行った。 ➤ KULINE 講義(15:10 - 15:35 担当:八木澤) <ul style="list-style-type: none"> □ 参考文献リストの役割やその記述例、図書と雑誌の違いを説明し、参考文献リストから書誌情報を読み取る方法を解説した。また、読み取った書誌情報を使用して、図書および雑誌について KULINE の検索方法の説明を行った。KULINE の検索テクニック前方一致検索・完全一致検索を例示した。 <p>◀後半▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ KULINE 演習(15:35 - 15:45 担当:内田) <ul style="list-style-type: none"> □ 演習前に例題を使用して KULINE 演習問題の解答方法の説明を行った。 □ KULINE を用いて、図書・雑誌の所蔵を検索する全 5 題の演習を実施した。 □ 演習補助者は受講生の状況を見てアドバイスをを行い、質問対応にあたった。 ➤ KULINE 演習解説(15:45 - 16:30 担当:内田) <ul style="list-style-type: none"> □ さきに学生に解答させた演習問題について解説を行った。なお、この演習問題の解答は評価に含めない。 □ 演習補助者は質問対応にあたった。 	

■ 第3回:講義 4月27日(火)

- ✓ 配信場所: 須田先生: 研究室 補助者: 附属図書館 3F 講習会(オンライン)
- ✓ 出席者: 13名
- ✓ 配布物: 須田先生講義資料、課題用紙(課題 1-4)、宿題説明資料

➤ 須田先生の講義 -大学レベルの論文の作成- (15:00 - 16:25)

- 須田先生から以下の内容について講義があった。
 - ・論文とは: エッセイ、感想とは異なり、根拠を挙げながら客観的事実・論理的結論を示すことが目的。
 - ・論文の展開法: これまでの研究成果・情報をまとめ、分析・比較・類推・相違点の指摘等を経て新しい仮設や概説・解説を提示する。
 - ・論文のテーマを絞り込む: 論文のテーマを整理し、研究テーマの上位語・下位語・関連語を検討して概念整理を行うことが必要。
 - ・参考図書を探して基本文献を確認する: 参考図書を調査することで、探していたテーマの解説以外に以下のことがわかる。
 - (1) 自分の研究テーマのメジャー度/マイナー度
 - (2) 自分の研究テーマの権威者
 - (3) 自分の研究テーマの主要参考文献
 - ・学術データベースの活用/インターネットの短所: 学術データベースを活用することで冊子体よりも遥かに多くの情報源に瞬時にアクセスできる。インターネット上の情報は信頼性を判断しなければならない、また変化しやすいためアドレスと閲覧日時をメモしておくこと。
 - ・論文作成: 参考図書から基礎文献、さらに個別論文と読み進める中で、先行研究の補足や一部修正、新説の提示等が可能との手ごたえが得られれば、論文執筆へと進む。その過程で、計画を立てる習慣をつけることが重要である。もし先行研究を読み進めるうちに、新規性のある論文を書くことが難しそうな場合は、関連する別のテーマに移るか、ささやかでも良いので先行研究を補足・修正する。
 - ・次回課題の予告: 次回(第4回)はこの講義の内容を踏まえ、受講生の関心に応じた、テーマ設定、概念整理、参考図書の調査、基本文献の所在確認を内容とした課題(JapanKnowledge演習)を実施する。

➤ 宿題の説明 (16:25 - 16:30 担当: 城下)

- 演習補助者が宿題(課題 1-4)について説明した。講義の内容を踏まえて、自分の関心のあるテーマを1つ設定し、アプローチする分野、キーワードの概念整理、調査テーマのタイトルを回答するよう指示した。
- 次回の JapanKnowledge 演習は宿題で設定したテーマを利用して実施することを併せて連絡した。

■ 第4回:演習 5月11日(火)

- ✓ 配信場所:須田先生: 研究室 補助者: 附属図書館 3F 講習会(オンライン)
- ✓ 出席者:17名
- ✓ 配布物: 実習説明、提出方法、課題用紙(課題 5-7)、事典リスト、

《前半》

➤ 実習説明 (15:00 - 15:20 担当:城下)

- 演習補助者が実習に向けて、参考図書の引き方と JapanKnowledge のアクセス方法について解説した。実習のヒントおよび採点基準について説明した。

《後半》

➤ JapanKnowledge 演習 (15:20 - 16:05)

- JapanKnowledge を利用して演習を行った。前回の宿題で設定したテーマ・キーワードを利用して、JapanKnowledge を検索して辞典・事典を調べ(課題 5)、別の辞典・事典を JapanKnowledge または附属図書館 1F 参考図書コーナーを使って調べ(課題 6)、その情報をもとに基本文献(辞典・事典類の「項目の執筆者」の著書、または「項目の参考文献」)を探す(課題 7)ように指示した。演習補助者はチャットで、受講生の質問対応にあたった。

➤ 課題提出方法の説明 (16:05 - 16:15 担当:八木澤)

- 課題は授業後も引き続き取り組むことができること、PandA の「テスト・クイズ」から期限までに提出することを説明した。最後に、次回の授業に関する連絡として、授業の予習ビデオを視聴し予習するよう指示した。